

令和 5 年 6 月 23 日現在

機関番号：64401

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17H00897

研究課題名(和文) モンゴルに関する画像記録を用いた地域像の再構築

研究課題名(英文) Reframing Images of Mongolia: Photographic records from the 19th century to early 20th century

研究代表者

小長谷 有紀 (Konagaya, Yuki)

国立民族学博物館・人類文明誌研究部・客員教員

研究者番号：30188750

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 31,580,000円

研究成果の概要(和文)：19世紀から20世紀にかけてモンゴルへ派出されたエクスペディションの写真コレクションについて、各国で整理にあたる研究者と協業し、横断的に分析できるようホームページを整備した。同サイトは英文で、16カ国185人の概要と資料の整理状況に関する総目録で、オンライン情報のワンストップとして機能する。本科研の成果のほか、筆者の許可を得て関連論文を英訳掲載し、エクスペディションの行程をデジタル地図上に統合した。コロナ禍のために国際的な対面作業が不可能となったが、オンライン作業に特化することでデジタルフィールドワークという領域を開拓した。その成果は、国立民族学博物館で開催された特別展とその図録で公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

コロナ禍のために国際的な対面作業が不可能となったため、オンライン作業に特化せざるを得なかった結果、徹底的にデジタル資料を発掘することとなり、デジタルフィールドワークという手法を具体的な成果とともに展開させることができた。これはいわば人文学のDXであると言える。

研究成果の概要(英文)：In collaboration with researchers working in various countries to organize expedition materials, especially image collections, that were dispatched to the Mongolia during the 19th and 20th centuries, a system for cross-sectional analysis has been established on the website. The website is an English-language general catalog of summaries of 185 travelers in 16 countries, as well as the status of the organization of the materials left behind, and serves as a one-stop for online information. In addition to the results of our project, the website also provides English translations of relevant articles with the permission of the authors and the routes of the expeditions on a digital map.

The COVID19 pandemic made international face-to-face work impossible. However, by specializing in online work, we were able to pioneer the digital fieldwork. The results were displayed on the special exhibition held at the National Museum of Ethnology and also published as its catalog.

研究分野：人文学

キーワード：デジタルフィールドワーク アーカイブズ エクスペディション ミッションナリー 写真 探検 モンゴル 画像

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

中央アジアと同様にモンゴルの研究においても、ロシア人による調査資料や研究業績は非常に重要であるにもかかわらず、典籍資料について概要説明や目録が整備されているのに比べて(中見1999, 2000)、日記や写真等エクスペディションの一次資料については公開が遅れていた。近年、ようやく原語による日記や報告の刊行(Yusupova 2003, Chuluun and Yusupova 2013 等)のほか、英語による解説も積極的に行われるようになり(Yusupova 2008, Kulganek 2009) またエクスペディション資料に基づく専論(Anderson 2011)が現れ、資料の意義が一段と認識されるようになってきた。また、東欧諸国からもそれぞれの言語でアーカイブズの公開が始まっている(Birtalan 2011, Tulisow et al. 2012, Lang 2013)。画像記録としては、インディー・ジョーンズのモデルであるR. C. Andrews の写真集(2013)やAlbert-Kahn 博物館(旧地球映像資料館)の企画展(2011-13)等の欧米資料もあり、既に公刊されたもの(Gotting 2005, Chuluun and Ivanov 2015等)を概観すると、社会主義期に規格化される以前の多様な天幕や、膨大な材木販売量に見る森林破壊等、約1世紀間の生活や環境の変化が了解される。ただし、各国の研究者は保有する資料を整理し、公開するために労力を費やしてしまうため、それらを横断的に利用し、総合的に分析するという段階には至っていなかった。

### 2. 研究の目的

(1) 中央アジアおよびチベット・モンゴルを含む内陸アジアに向けて、20世紀初頭にヨーロッパやロシアから派遣されたカトリック宣教師や学術調査隊等(「エクスペディション」と総称)は、一般向け旅行記とは別に、学術的価値をもつ膨大な資料を残しており、各国で資料整理が進められている。こうした整理にあたっている各国研究者の協力を得て、国際共同研究のためのプラットフォームを構築しながら、これまで本格的な分析が進んでいない画像記録(写真・動画)に焦点をあて、モンゴル地域研究に資するべく主題別に分析する。これにより、まず「プレ社会主義期」を可視化し、これまでの地域像の源泉である「社会主義期」「ポスト社会主義期(=移行期)」に加え、「プレ社会主義期」から「ポスト移行期」を迎えた現在までの統合的な地域像を再構築する。

(2) 「ポスト移行期」を迎えたモンゴルや中央アジア諸国では、経済格差など共通の社会問題を抱えている。こうした問題群の発端は、市場経済への移行期すなわちポスト社会主義期にあり、それゆえに社会主義期に関する研究が欠かせないという観点から、応募者はこれまで「社会主義的近代化」に関する「語り」を人生史として収集してきた(小長谷2013 他多数)。公式見解が社会を抑圧していた地域では、公的メディアである史料では分からない実態を知り得るからである。この試みは歴史学でも採用されるようになったが(Morozova 2009 等)、一方で歴史学は史料を用いて、“historiography”(Kotkin and Elleman 1999)のように、グローバルな関係史として地域を描こうと試みるのに対して、人びとからの「語り」の収集は時代を遡るのに限界がある。国境線のゆらぐ現在、グローバルヒストリーの潮流を念頭に地域を位置付ける、すなわちグローバルな関係性の束として地域像を描くために、画像記録は、意図せぬ実態をノイズとして含む情報源であるという点で新たな地域像を読み解く切り口を多様に潜在させており、きわめて有効であると思われる。本応募研究は、画像記録に関する分析方法を確立して地域研究の発展に寄与するという目的をもつ。

### 3. 研究の方法

(1) アーカイブズ資料の整理分析にあたっている研究者たちと協業するために、主要な研究機

関（サンクトペテルブルグにあるロシア科学アカデミー、ロシア地理学協会、コズロフ博物館、コペンハーゲンにあるデンマーク国立博物館、ヘルシンキ大学、ウプサラ大学、ストックホルムにあるスウェン・ヘディン財団、イギリス地理学会、フランス国立図書館、ブタペストにあるエトヴェシュ・ロラード大学等）を訪問し、現地でワークショップを開催し協業体制を整備する。

（２）コロナ禍のために国際共同研究を目的とする現地調査は不可能となったため、オンライン作業に集中し、デジタルフィールドワークという手法の追求を人文学のDXとして展開した。具体的には、第一にオンラインで公開されている資料の発掘、第二にそれらの資料に関して許可を得られる範囲でリンクを貼り、集積させるウェブサイトの構築、第三にテキストをデジタル化することでAI翻訳を利用して、フィンランド語による旅行記など多言語資料の読解、第四に異なる図法や尺度で描かれていた行程図をデジタル地図に統合、第五にそれらの資料を用いながらズームによる国際会議の実施、である。

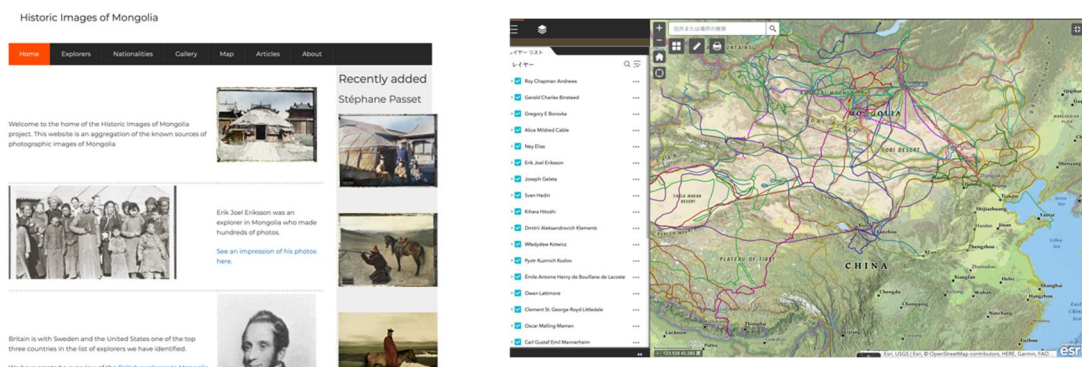
（３）コレクションごとに異なる方法で整理されている画像資料をコレクション横断的に分析する。メタデータの共有を果たす代わりに、同時代に描かれた絵図を参照枠にして、絵図に描かれた何をどのような角度から撮影した写真であるかを特定しながら、同類の写真を集積することで、1枚の写真ではわからない地域像の複合的な分析を行った。

（４）描かれたテーマに応じたコンテンツの分析を進めるうちに、木材の利用と森林資源の変化が顕著なことから、古写真を環境分析に利用するプロジェクト（鳥取大学乾燥地研究センターの共同研究）を派生させた。

#### 4. 研究成果

##### （１）ウェブサイトの作成による学術情報の集積化

各機関で整理にあたっている研究者たちと協業し、横断的に分析できる体制をホームページ上に整備した。同ウェブサイトは英文で、16カ国185人の調査概要と出版物や遺された資料の整理状況に関する総目録である。と同時に、オンライン情報に対しては可能な範囲でリンクを貼っているため、ワンストップとして機能する。とりわけ必要な画像データに直接アプローチできるよう整備しているため、誰もが各機関サイト内で戸惑うことなく、効率的に分析できる。



こうした情報のうち、学術目的のエクスペディションについては日本語で論文を執筆した（小長谷 2021）。査読を経て刊行されたのち、自主的に英訳してHPに掲げ、リファレンスとしての有益性を高めた。また、探検ごとに図法も尺度も異なる行程図をデジタル地図に統合して比較できるようにしたことは画期的な成果である。

##### （２）ワークショップの開催による国際的なネットワークの構築

各国の研究者たちと協業するために、コレクションをもつ主要機関でワークショップを行い、各コレクションの特徴を報告し、共通の課題を明確にした。2017年に大阪の国立民族学博物館、2018年にサンクトペテルブルグのコズロフ博物館、2019年にコペンハーゲンの国立博物館に、

日本、モンゴル、ロシア、ハンガリー、ポーランド、デンマーク、イギリスの研究者が集った。その後、コロナ禍のために課題に取り組むことが困難となったが、ネットワークは健在である。

### (3) デジタル資料の探索

コロナ禍のために現地調査が不可能となったため、オンラインでの探索を強化した。その結果、ウランバートルの最古の写真がブラジル国立図書館に保管されていることや、ロシア人の個人ブログに掲載されている写真が、1923年にソ連の対外情報部からモンゴルへ派遣されたI.A. チチャエフ(1896-1984)氏のアルバムに貼られていたもので、モスクワのアパートのゴミ箱から拾われたものであることなどが判明した。前者は、ユネスコの世界ライブラリとしてアメリカ議会図書館から公開されている資料の一部である。同資料はモンゴルのみならず世界の近代史研究にとって有益であると推奨している。

### (4) コレクション横断によるコンテンツの分析

写真コレクションはそれぞれ撮影者の視点による固有の特徴を持っている。そうした特徴は同時に偏りでもある。そこで、複数のコレクションを横断して見渡すことによって、一枚の写真だけでわからなかったことがわかり、それぞれの写真の情報が多角化する可能性がある。

アメリカ自然史博物館から公開されているロイ・チャップマン・アンドリュース探検隊、オスロ大学から公開されている、ノルウェー出身のビジネスマンであったオスカー・マーメン、フィンランド文化遺産庁から公開されているサカリ・パルシーなど同時代にモンゴルを訪問した人びとの撮影写真を比較して、1920年代の政庁、寺院、市場などシーンごとに復元した。とりわけ漢族が集住する買売城は賑やかな中華街ではなく、閑散とした総戸外であることが明白になるなど、言葉のイメージでは伝わらない真実を写真が提供した。

こうした成果は国立民族学博物館で開催された、日本・モンゴル外交関係樹立50周年記念特別展「邂逅する写真たち モンゴルの100年前と今」(2022年3月13日から5月31日まで)で公開した。なお、展示名と同名の図録では科研メンバーの全員が寄与した。



### (5) 画像駆動型研究の意義

写真は基本的に撮影者の意図を反映する記録であると同時に、言語テキストとは異なり、意図せぬ実態をノイズとして含む情報源であるという点で、新たな地域像を読み解く切り口を多様に含みもつ可能性を秘めている。画像駆動型研究とは、古い写真を、歴史研究の随伴情報として用いるのではなく、分析の中心に据えて課題を発掘することを指す。

例えば、野犬については多くの旅行記で恐ろしいと言及されているのに対して、写真に登場する野犬からその実態を明らかにすることができるので、これについては英語で論文を刊行した(Konagaya2022)。

また、例えば、木材売り場の写真から、旅行記でも十分に記載されていることを再発見し、ウランバートルの地理的位置付けについて日本語で論文を刊行した(小長谷・鈴木2021)。

#### ( 6 ) 環境問題に関する共同研究のスピンオフ

画像駆動型研究の一つとして、古い写真を環境研究に用いる研究を組織した。植物学、建築学、地理学からスタッフを加えて、鳥取大学乾燥地研究センターの共同研究(2020-21、2022-2023)に応募し、都市建設に伴う木材利用の拡大と森林資源の枯渇という観点から、具体的に100年間の実態について写真から明らかにし、環境研究に寄与した(堀田ほか2022)。同チームは、上述の展示でも絵図の投影などで大きく貢献した。

#### ( 7 ) スウェーデン写真に関する他の研究との連携

スウェーデンのキリスト教布教活動に際して撮影されたコレクションに関して、異なる科研が並行して実施されていたため、これと連携して、当時の牧畜作業の実態を明らかにした。とりわけ動画が入手されるに及んで、搾乳と哺乳が同時に行われていた実態が明らかになり、家畜化(搾乳の起源)を推測する上での重要な手掛かりとなることを明らかにした(印刷中)。

#### 引用文献

中見 立夫(共編)1999 *Catalogue of the Mongolian Manuscripts and Xylographs in the St. Petersburg State University*, Tokyo: Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies.

中見 立夫 2000 サンクト・ペテルブルグのモンゴル語典籍・資料、東方学99:1-13.

小長谷有紀ほか2004 『モンゴルの二十世紀 社会主義を生きた人びとの証言』東京：中央公論新社。

Anderson, D.G. 2011 *The 1926/27 Soviet Polar Census Expeditions*, Oxford: Berghahn Books.

Gotting, D. 2005 *Mongolia: Images from Far Away: Historical Photographs of a Scholar Hermann Consten* (in German), Bonn: German-Mongolian Society.

Birtalan, A. 2011 On the Hungarian Sources of Bálint Gábor of Szentkoltina's Research among the Kalmyks (in Magyar), Proceedings of academic conference held at Kalmyk National University, pp.71-78.

Chuluun, S. and D. I. Ivanov 2015 *Mongol and Mongolians* vol.2 (in Mongolian and Russian), UB: Admon.

Chuluun, S. and T. N. Yusupova, 2013 *M. I. Klyangina-Kondratiyeva Mongolian Buddhist Culture*, Osaka: National Museum of Ethnology.

Kotkin S. and B. Elleman 1999 *Mongolia in the Twentieth Century: Landlocked Cosmopolitan*, NY: M.E. Sharpe.

Kulganek, I. V. et al. 2009 Professor O. M. Kowalewski: Mongolian studies scholar, traveler and enlightener: His biographical landmarks, *Acta Orientalia Vilnensia* 10:29-56.

Lang, Maria-Katharina 2013 *The Mongolian Collections: Retracing Hans Leder*, Wien: Austrian Academy of Sciences.

Morozova, Y. Irina 2009 *Socialist Revolutions in Asia: the social history of Mongolia in the twentieth century*, London: Routledge.

Tulisow, J. et al. 2012 *In the Heart of Mongolia. 100th Anniversary of W. Kotwicz's Expedition to Mongolia in 1912*, Cracovie: Polish Academy of Arts and Sciences.

Yusupova, T. I. 2008 P. K. Kozlov's Mongolia and Sichuan Expedition (1907-199): the Discovery of Kharkhoto, *Russian Expeditions of Central Asia at the Turn of the 20th Century*, pp.112-129, St. P.: Slavia.

Yusupova, T. I. 2003 *K. Kozlov, Diary of Mongol-Tibet Expedition 1923-26* (in Russian). St. P.: Nauka.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 小長谷有紀	4. 巻 75(3)
2. 論文標題 モンゴルにおけるウマと人	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 生物の科学 遺伝	6. 最初と最後の頁 244-250
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小長谷有紀ほか	4. 巻 29 - 1
2. 論文標題 モンゴルにおける宿营地集団の研究（3）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 沙漠研究	6. 最初と最後の頁 11-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14976/jals.29.1_11	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小長谷有紀、鈴木康平、堀田あゆみ、篠田雅人、山中典和	4. 巻 28(3)
2. 論文標題 モンゴルにおける宿营地集団の研究—A.D.Simukovの「ホト」論文の紹介—	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 砂漠研究	6. 最初と最後の頁 217-227
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14976/jals.28.3_217	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 鈴木康平、小長谷有紀、堀田あゆみ、篠田雅人、山中典和	4. 巻 28(3)
2. 論文標題 モンゴルにおける宿营地集団の研究—A.D.Simukovの「モンゴル人民共和国の住民の遊牧生活に関する資料（第一部）」論文の紹介—	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 砂漠研究	6. 最初と最後の頁 229-241
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14976/jals.28.3_229	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 島村一平	4. 巻 44
2. 論文標題 呪術化する社会主義－社会主義モンゴルにおける仏教の呪術的实践と遺俗ラマ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会人類学年報	6. 最初と最後の頁 29-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上治	4. 巻 1
2. 論文標題 元朝北遷からリグデン・ハーンまで	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中央ユーラシア史研究入門	6. 最初と最後の頁 143-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小長谷有紀	4. 巻 20
2. 論文標題 日本霊長類学の黎明期に関する資料－国立民族学博物館の民族学研究アーカイブズから－	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ヒマラヤ学誌	6. 最初と最後の頁 119-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小長谷有紀	4. 巻 1
2. 論文標題 ロシアのシベリアに対する使命感	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 川田順造編著『ナショナル・アイデンティティを問い直す』	6. 最初と最後の頁 122-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuki KONAGAYA	4. 巻 1
2. 論文標題 Modern Origins of Chinggis Khan Worship	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 M. Rossabi ed. How Mongolia Matters	6. 最初と最後の頁 147-164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小長谷有紀	4. 巻 176
2. 論文標題 夢見る力を鍛える	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 TOYRO BUSINESS	6. 最初と最後の頁 30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 楊海英	4. 巻 6
2. 論文標題 レンズの中の「遊牧図譜」：梅棹忠夫モンゴル研究資料内の和崎洋一撮影写真を読む	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Afro-Eurasian Inner Dry Land Civilizations	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Katsuhiko TAKIZAWA	4. 巻 62
2. 論文標題 The Historical Context of Translating the Bible into Mongolian in the First Half of the 19th Century	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東北アジア研究センター叢書	6. 最初と最後の頁 49-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 辛嶋博善	4. 巻 41-12
2. 論文標題 浸透した社会主義、温存された習慣	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 月刊みんぱく	6. 最初と最後の頁 4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 15件)

1. 発表者名 堀田あゆみ
2. 発表標題 モンゴル古写真からわかる木材消費
3. 学会等名 鳥取大学乾燥地研究所共同研究
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 辛嶋博善
2. 発表標題 モンゴル古写真の技術的特徴について
3. 学会等名 鳥取大学乾燥地研究所共同研究
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takizawa, Katsuhiko
2. 発表標題 Digitization and analysis of the Joel Eriksson Collection
3. 学会等名 デンマーク国立博物館ワークショップ (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Inoue, Osamu
2. 発表標題 Recent Development on Tagging Photographs of Prof. W. Kotwicz in the Archive of Science of PAS and PAAS in Cracow
3. 学会等名 デンマーク国立博物館ワークショップ(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Karashima, Hiroyoshi
2. 発表標題 Exploring the photographic techniques and the subjects of photographs up until the 1930's in Mongolia
3. 学会等名 デンマーク国立博物館ワークショップ(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ohno, Akira
2. 発表標題 Pictures and Manuscripts related to the Ordos Mongol in Belgium
3. 学会等名 デンマーク国立博物館ワークショップ(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Konagaya, Yuki
2. 発表標題 Mongolian Community in Taiwan and Memory of living Buddha
3. 学会等名 International Mongolian Studies, annual meeting in Europe(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Inoue, Osamu
2. 発表標題 The publication of Japanese Propaganda Journal Front in the era of Imperialism
3. 学会等名 International Mongolian Studies, annual meeting in Asia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 滝澤克彦
2. 発表標題 モンゴルにおけるキリスト教 (モンゴル語)
3. 学会等名 国際モンゴル学会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 井上治
2. 発表標題 モンゴル語の白樺写本
3. 学会等名 タートルと日本：歴史と未来ーロシアにおける日本年を契機として (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Osamu Inoue
2. 発表標題 Tagging to the photos of W. Kotwicz's collection
3. 学会等名 International Workshop on Mongolian Photo Project (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yang Hai Ying
2. 発表標題 Pictures and Manuscripts related to the Ordos Mongol in Belgium, C.I.C.M.
3. 学会等名 International Workshop on Mongolian Photo Project (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Maekawa AI
2. 発表標題 Annual Progress Report
3. 学会等名 International Workshop on Mongolian Photo Project (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hotta Ayumi
2. 発表標題 A case study of classifying photographs: The photo collection of Inner Mongolian Expedition in1939 by K. Imanishi and M. Morishita
3. 学会等名 International Workshop on Mongolian Photo Project (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Suzuki Kohei
2. 発表標題 Utilization possibility of old photos for Mongolian vegetation studies
3. 学会等名 International Workshop on Mongolian Photo Project (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Karashima Hiroyoshi
2. 発表標題 Photography and Anthropology
3. 学会等名 International Workshop on Mongolian Photo Project (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小長谷有紀
2. 発表標題 日本におけるモンゴル研究の最近の動向
3. 学会等名 中国中央民族大学蒙古語言文学系海外名師系列講座 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小長谷有紀
2. 発表標題 Traditional Cultivation and Ethnic Identity in West Mongolia
3. 学会等名 中央民族大学第2回蒙古文献学国際学術討論会 (第3回国際モンゴル学会合同) (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 井上治	4. 発行年 2019年
2. 出版社 公益財団法人しまね文化振興財団	5. 総ページ数 134
3. 書名 河萬里撮影フィルム目録	

1. 著者名 井上治	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ユネスコ遊牧文明研究所	5. 総ページ数 426
3. 書名 モンゴル白樺文書の研究 (モンゴル語)	

1. 著者名 小長谷有紀	4. 発行年 2018年
2. 出版社 内蒙古文化出版社	5. 総ページ数 268
3. 書名 人類学家在草原成長	

1. 著者名 小長谷有紀	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Udam soyol	5. 総ページ数 261
3. 書名 Tal nutagt boijson Anthropologisch	

1. 著者名 楊海英	4. 発行年 2018年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 334
3. 書名 最後の馬賊 - <帝国>の將軍・李守信	

1. 著者名 楊海英	4. 発行年 2018年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 320
3. 書名 モンゴル人の中国革命	

1. 著者名 小長谷 有紀	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 284
3. 書名 ウメサオタダオが語る、梅棹忠夫	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Historic Images of Mongolia <a href="https://historicimages.mn">https://historicimages.mn</a> Historic Images of Mongolia <a href="https://historicimages.mn">https://historicimages.mn</a> Historic Images of Mongolia <a href="https://historicimages.mn">historicimages.mn</a>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	堀田 あゆみ  (Hotta Ayumi)  (10725170)	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構本部・総合情報発信センター・研究員   (82651)	



## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	前川 愛 (Maekawa Ai)  (30506796)	京都外国語大学・外国語学部・非常勤講師  (34302)	
研究分担者	大野 旭（楊海英） (Ohono Akira)  (40278651)	静岡大学・人文社会科学部・教授  (13801)	
研究分担者	辛嶋 博善 (Karashima Hiroyoshi)  (60516805)	国立民族学博物館・北東アジア地域研究国立民族学博物館拠点・特任助教  (64401)	
研究分担者	井上 治 (Inoue Osamu)  (70287944)	島根県立大学・国際関係学部・教授  (25201)	
研究分担者	滝澤 克彦 (Takizawa Jatsuhiko)  (80516691)	長崎大学・多文化社会学部・教授  (17301)	
研究分担者	島村 一平 (Shimamura Ippei)  (20390718)	滋賀県立大学・人間文化学部・准教授  (24201)	初年度のみ参加した。所属は2017年当時。

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 Annual meeting of Reframing Images of Mongolia	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 International Workshop on Mongolian Photo Project	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Analyzing Historic Photographs of Foreign Missionaries and Expeditions to Mongolia	開催年 2017年～2017年

## 8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
Hungary	Eotvos Lorand University	Hungary Academy of Sciences		
Porland	University of Warsaw	Krakow Archive		
Russia	Russian Academy of Sciences	Peter the Great Museum	Russian Geographical Society	他2機関
Mongolia	Mongolian Academy of Sciences			
Finland	Helsinki University	National Museum	Literary Association	
デンマーク	National Museum			
英国	Royal Geographical Society			